



台風予測

TYPHOON FORECAST

NEWSLETTER 2025

JAPAN RISK SPECIALIST

Kanda Ogawamachi 1-7
Chiyoda City, Tokyo, Japan 101-0052

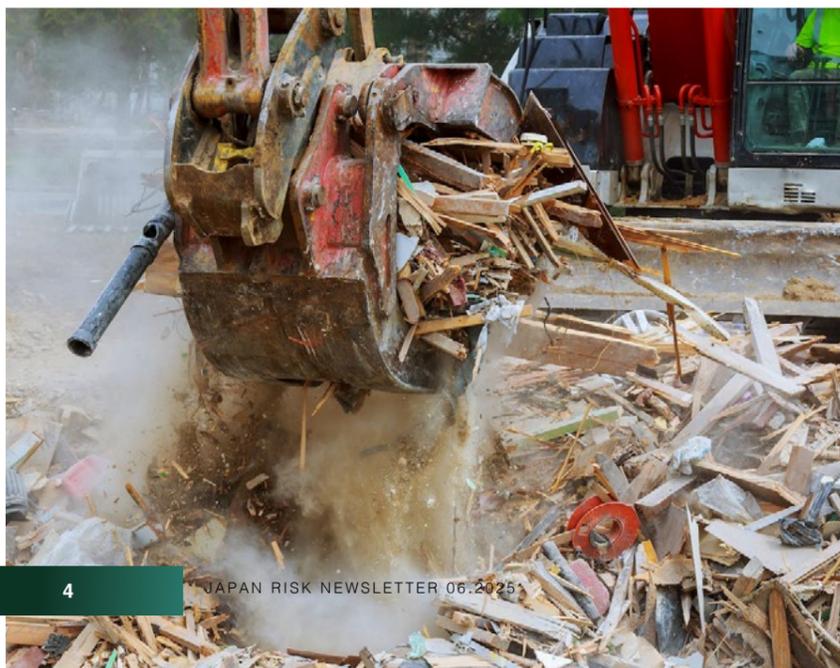
japanriskspecialist.com



2025年、梅雨入り後梅雨空は数日で連日強い日差しが照り付ける30度を超える猛暑が続いています。

例年では6月までに4個ほどの台風が発生していますが、今年は6月11日に台風1号が発生するという統計開始以来5番目に遅いペースのようです。
しかしながら、発生が遅くても年間発生回数は平年を上回る記録もあるため、今後の豪雨や台風被害が気になります。

ロンドンの産業界、特に保険業界に向けて気象リスクの管理サービス、災害対策などを提供するEuroTempest社 (<https://www.eurotempest.ltd/>) から2025年の台風長期予報が発表されましたので、共有させていただきます。



概要

台風は、平年を下回る活動になると予測されており、台風によるリスクは低いとみています。

この予測は、以下の要因に基づいています：

- ・ 8月～10月のエルニーニョとの強い相関関係
- ・ 4月までの赤道西部太平洋の貿易風異常
- ・ 年初からの活動状況
- ・ 太平洋十年規模振動(PDO)

熱帯低気圧(主に台風やハリケーン)の活動の強さと持続時間を表す指標にACE指数(Accumulated Cyclone Energy Index)があります。具体的には、ある期間(通常は1年間)に発生したすべての熱帯性暴風について、強さと継続時間を考慮してエネルギー量を積算して求められます。

同じ勢力の台風でも、長く続いて強かった場合、ACE指数が高くなります。

一年間に発生した台風の「数」が同じでも、ACEが高ければ強力な台風が多かったということになります。

現時点での予測は不確実性がありますが、2025年のACE指数は1991～2020年の平年値を上回る可能性は25%にとどまると試算されています。

三分位予測確率と2025年の季節別台風活動予測

(2025年5月時点)

ある気象要素(例:降水量、気温、ACE指数など)の予測結果を3つの範囲に分けて、それぞれに属する確率を示す予報手法の三分位予測確率があります。主に季節予報や気候予測で使われます。

「平均」ではなく、リスクの分布や傾向を伝えるための予報形式なので、平均が同じでもリスクが異なる年の違いを明確にできるという特徴があります。そのため保険業界のリスク評価にも用いられています。

具体的には上位・中位・下位の3つで範囲は次のようになります:

- ・ 上位三分位(Above-normal):上から3分の1(=66%以上)
- ・ 中位三分位(Near-normal):真ん中の3分の1(=33~66%)
- ・ 下位三分位(Below-normal):過去データの下から3分の1(=33%以下)

EuroTempest社は1991年~2020年のデータに基づいて、2025年のACE指数に関する三分位予測確率を次のように試算しています:

- ・ 上位三分位(平年より高い活動)の確率:25%
- ・ 中位三分位(平年並みの活動)の確率:32%
- ・ 下位三分位(平年より低い活動)の確率:43%

EuroTempest社予測のACE指数および台風数(2025年)

指標	ACE指数	強い台風の数 (カテゴリ3以上)	台風数	熱帯低気圧数 (全体)
EuroTempest社予測(2025年)	266	8	15	25
気候平年値(1991~2020年)	301	9.3	16.0	25.5
直近10年平均(2015~2024年)	250	8.4	14.2	24.0
この時期の予測精度(2015~2024年平均)	26%	20%	0%	0%



2025年5月の台風活動予測 に影響を与える要因

エルニーニョ:

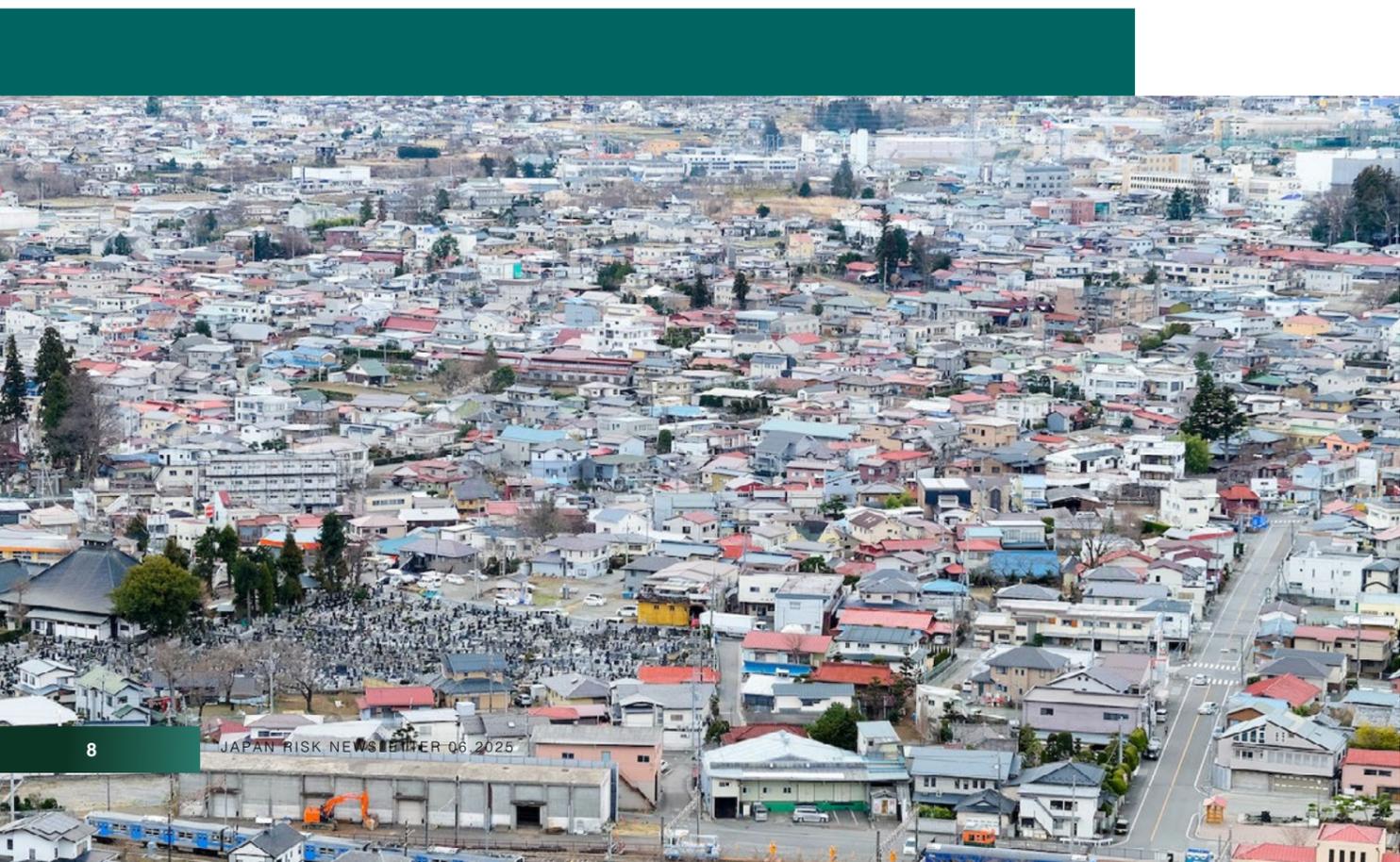
太平洋赤道域の海面水温の変化に関する現象を3つの状態に分けて台風活動と関連づけています。また、3か月平均の海面水温偏差を海面水温の状態を表す指標として使っています。

赤道付近の海が平年より暖かい	エルニーニョ	+0.5°C以上
赤道付近の海が平年より冷たい	ラニーニャ	-0.5°C以下
平年並み	中立	-0.5°C~+0.5°C

エルニーニョの状態では台風の数はやや少なめで、台風は太平洋の東よりで発生し、日本に向かいやすいと言われています。

一方でラニーニャの状態では台風はやや多く、太平洋の西寄りで発生した台風が、フィリピン、中国へ向かう傾向があるようです。

EuroTempest社の合意予測値は+0.1°Cです。これは上記の分類の通り、中立的な状態に相当します。現時点では、2025年の台風活動に太平洋赤道域の海面水温の変化が大きな影響を及ぼすとは考えていません。



赤道域東西風の風速:

4月の赤道付近の風の強さからも、台風の活動量がある程度予想できます。

パプアニューギニア～日付変更線付近の太平洋赤道域である、南緯5度～北緯5度、東経140度～180度での東から西へ吹く風(=東風)の強さを調べています。

この地域で東風が平年より強くなると、台風が少なくなる傾向があります。

2025年4月の風速は-2.6 m/sであり、平年よりも東風が強い状態でした。風速と台風の数との関連性から、2025年の台風シーズンが平年以下の活動となることと一致します。

太平洋10年規模振動(PDO):

PDO(Pacific Decadal Oscillation、太平洋十年規模振動)は、エルニーニョのように太平洋の海水温が長期的に変化する現象です。

PDOが正の状態(暖かい海)だと台風が多くなり、負の状態(冷たい海)だと台風が少なくなる傾向があります。2025年4月までのPDOは負の位相を示しており、これは歴史的に台風活動を抑制する傾向にあると言えます。ただし、過去のデータによると、4月のPDOとその年の台風活動との相関は弱いので、2025年における台風活動への影響はごくわずかであると考えられます。

最後に

台風やハリケーンの季節予測は、保険会社や政府などがリスクに備えるのに役立ちますが、予測の不確かさがはっきり示されないことが多いことも事実です。

そのような状態が、予測の信頼性を下げたり、「はずれた」と思われてしまう原因になります。

そのため、どのくらいの確率で、ある基準(たとえば台風の数など)を超えるのかを数値で示すことが求められているようです。

「今年、台風が10個を超える確率は30%」というふうに、どれくらいの可能性で基準を上回るかを示すことで、「どれくらいのリスクがあるのか」を数字でイメージしやすくなります。

今回届いた予測もいくつかの分析により精査されたデータをもとにこの考えにもとづいて発表されました。

レポートは学術的要素を多く含んだ内容でしたので、ポイントを抜きだしてご紹介させていただきました。

ジャパン・リスク・スペシャリスト株式会社
代表取締役 荒木 直義

101-0052 東京都千代田区神田小川町1-7小川町メセナビル9階
03-6811-0961

naoyoshi.araki@japanriskspecialist.com



秘密文書

貴社関係者以外開示禁止 無断で複製、頒布等を行うことを禁じます。